科目ナン	バリン	グ U-1	LAS05 10001 LJ40									
授業科目名 文化人類学 I Cultural Anthropology I						世当者所属 人間・環境学研究科 教授 岩谷 彩子 戦名・氏名					彩子	
群	人文・社会科学科目群 分野(分類) 地地					战・文化(基礎)			使	用言語	日本	語
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ		授業用	業形態 講義(対面授業科目)			目)	
開講年度・ 開講期	2025・前期 曜時限 木3			配当学年		全回生		対象学	生	全学向		

[授業の概要・目的]

文化人類学とは、究極的には自己について、自己が置かれた環境について問い直す学問である。それは他者を「理解」することがはらむ困難に立ち向かい、なおかつその重要性を問いつづけることをも意味する。本講義では、文化人類学の基本的な考え方と諸理論を紹介し、異なる社会環境にある人々の生活実践や思考様式を、自己が身を置く社会の諸問題の延長線上にとらえることを目指す。

[到達目標]

グローバル化の進行とともにますます接触と衝突の機会が増しつつある「異文化」に対して、自分なりの応答の仕方を身につける。

[授業計画と内容]

- 第1回 文化人類学の方法と課題
- 第2回 人類の社会性 言語・親族・家族
- 第3回 人間の多様性 ジェンダーとセクシュアリティ
- |第4回||文化的他者の問題||植民地主義とポストコロニアリズム|
- |第5回||エスニシティと人種
- 第6回 政治と社会
- 第7回 経済と交換
- 第8回 信仰と世界観
- 第9回 芸術と遊び
- 第10回 身体と文化
- 第11回 グローバリゼーションと文化変容
- 第12回 メディアとネットワーク化する社会
- 第13回 ものからとらえる人間世界
- 第14回 環境・社会空間・人

期末試験

|第15回||フィードバック

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点・小レポート(20%)、定期試験(80%)で評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

内堀基光・奥野克己 『文化人類学』(放送大学教育振興会)

ゴドリエ、モーリス『人類学の再構築』人間社会とは何か』(明石書店)

文化人類学 I (2)へ続く

文化人類学 I (2)
授業中に提示された文献については、できるだけ目を通しておくこと。
[その他(オフィスアワー等)]
ディスカッションを促進する目的で、人数制限を実施します。 講義の内容について明確でない点は、授業中・授業後などの機会を利用して、積極的に教員に質問 してください。あるいは、個別に教員にメールでお問い合わせください。
[主要授業科目(学部・学科名)]